



「人々の健康生活」の実現をめざします



vol. 34
2023.8

中支部だより

広島県看護協会中支部会員数	
保健師	41人(入会率26%)
助産師	110人(入会率113%)
看護師	2,916人(入会率64%)
准看護師	43人(入会率 6%)
合 計	3,110人(入会率57%)

中支部長
ごあいさつ

看護職が元気に働き続けられる 支部活動を目指して

広島中支部長 垣田 みどり



平素より広島県看護協会広島中支部の皆様におかれましては、格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

この度、広島中支部長を拝命いたしました、垣田みどりでございます。

今年度は、支部長を含め5名の役員が交代し、新体制となりました。会員の皆様を支えられ役員一同これまで以上に中支部の活動推進のお役に立てるよう尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、withコロナの中、感染予防対策を講じて、対面での研修会の開催を実施できました。会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症への対応で、お忙しい中、研修会に参集いただきありがとうございます。

2023年5月8日からは、新型コロナウイルス感染症が感染症法2類から5類移へ変更になりました。ポストコロナ時代を迎え、新しい時代に対応した研修事業や地域活動への取り組みを検討してまいりたいと思っております。

今後は、会員の皆様と、顔の見える研修事業を行い、中支部ネットワークをより強固に行っていきたく思っております。

労働人口の減少による人材の確保問題や新興感染症の流行への備えなど、社会状況が変化
する中で、看護職に求められる役割は大きく変化し、多様化しています。社会のニーズに柔軟に対応するために、看護職が、あらゆる働く場で、連携をはかりながら地域の方々の医療と暮らしを支える必要があります。ま



令和5年度 役員全員集合

た、2024年度から始まる医師の働き方改革により、タスクシフト、特定看護師の活用など専門職としての期待が益々大きくなっています。

新たな時代を迎え、看護職としての専門性を活かした、まちの保健室などの健康相談や健康指導を行うなど、地域看護事業を通じ、地域に貢献できる事業を展開してまいります。

そして、私たち看護職が健康で生涯を通し、安心して活き活きと働き続けられるような事業活動を行って参りたいと思います。

会員の皆様からの忌憚のないご意見やご提案を伺いながら、事業推進に努める所存でございます。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

★ 新役員紹介 ★



副支部長
池田 規恵
(一ノ瀬病院)

この度副支部長を任命されました。初めてのことで皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願い申し上げます。



幹事
仁井山 由香
(広島市民病院)

中支部の皆様のお役に立てるように一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



幹事
繁野 憲子
(広島市立看護専門学校)

今年度より役員となりました。中支部の事業運営が皆様の日頃の活動のお役に立てるよう努めてまいります。



幹事
余島 久美子
(舟入市民病院)

はじめてで分からない事も多いと思いますが、よろしくお願い致します。

▶ 令和5年度 中支部総会

4月15日(土)に中支部総会を開催しました。

今年度は一般参加の皆様にも多数参加していただき、活気ある総会となりました。

総会後の交流会では、日本快眠研究所 所長 國井 修先生をお招きし、「睡眠負債を解消しよう～労働災害防止のために～」をテーマに講演をしていただきました。睡眠パターンが乱れがちなる看護職の睡眠のとり方について、具体的にお話しいただきとても分かりやすい内容でした。



令和4年度 事業報告

REPORT 01

救急蘇生(初級コース)

講師 広島市立広島市民病院 救急看護認定看護師 板原 容子 先生
インストラクター5名

日時／令和4年9月3日(土)
場所／広島市立広島市民病院

今回、救急蘇生研修会に参加させて頂き、BLSの基本的な知識・技術を学ぶことができました。看護師として人の命を守るという使命感と責任感を大切に、より一層努力しながら現場で活かしていきたいと感じました。

医療法人社団おると会 浜脇整形外科病院 姫井 恭子

私は現在、病棟勤務ではなく血液センターにて献血に携わっているため、救急蘇生の機会が正直ありません。しかし、AEDは献血の移動バスにも、献血ルームにも設置しています。いざという時に、適切な対応ができるスキルを今回の研修では身につけることができましたと思います。グループで何度も役割をローテーションし演習しました。私のグループでは、テンポが遅くなったり疲れを感じていると圧迫がうまくできていなかったため、自らが交代を依頼したり、周りの人がタイミングをみて、交代することを伝え質の高いCPRを意識して実践することができました。今回の研修を血液センターのスタッフにも共有し、BLSの知識、技術を高めたいと思います。

広島県赤十字血液センター 坂田 萌



REPORT 02

社会経済福祉研修会「今の自分でいい」

講師 カウンセリングルーム虹 臨床心理士 野中 春樹 先生

日時／令和4年10月22日(土)
場所／広島赤十字・原爆病院



野中春樹先生は、日頃ストレスで疲れ切った我々の心を優しく解きほぐし、「自分の気持ちを素直に出して、心の強度を高めること」を教えてくださいました。職場でもスタッフや自分を認めて、気持ちを引き出せるように関わりたいと思いました。

広島赤十字・原爆病院 近藤 真紀



健康で働き続けるには、「心の強度」が必要であり「私のために何をしてあげられるかだろうかと、自分自身にフォーカスをあてて考える事が大切、という言葉が印象的でした。私たちに頑張れる力をいただいた研修会でした。

広島市立舟入市民病院 小林 真由美

REPORT 03

組織強化研修会 (中支部研修会) 「当事者の視点にもとづく倫理的問題の調整」

日時／令和4年11月20日(日)

場所／広島市立広島市民病院

講師 日本赤十字広島看護大学 基礎看護学教授 川西 美佐 先生

今回の倫理研修を通して、倫理的問題について考える際、医学的な視点からだけでなく、多方面から情報収集をすることの重要性を学ぶことができました。また、実際に事例を用いてグループワークを行うことで、患者や家族の何気ない一言や行動に隠された根拠について各当事者の立場になって考えることが患者の本当の思いを知ることに繋がり、患者の意向に沿った看護を実践する上でとても重要であるということを改めて感じることができました。



国家公務員共済組合連合会 吉島病院 山本 里緒菜

今回の研修に参加して、自分の思い込みや経験から偏った倫理的な視点があることを自覚できました。何か「モヤモヤ」と感じた時は、記録に残すことや言語化し共有することで患者・家族の言葉や行動の裏に隠されたSOSを察知する力が身につくと分かりました。

患者・家族に感じたことをリアルタイムで看護師や他職種と共有し、情報の断片を紡ぎ合わせることで患者・家族の真の思いと向き合いたい。

中国電力株式会社 中電病院 曾根田 美樹



REPORT 04

関連職種研修会 「ACPについて医師、看護師の立場から」

日時／令和4年12月10日(土)

場所／広島市立広島市民病院

講師 広島市立広島市民病院 緩和ケア科

岡部 智行 先生

広島市立広島市民病院 がん看護専門看護師

仁井山 由香 先生

YMCA訪問看護ステーション・ピース がん看護専門看護師

瀨本 千春 先生



現場の医師・看護師からACPの現状と課題、進め方について学ばせていただき、外来～病棟、在宅へと連携が鍵となること、患者が意思決定出来るような支援体制を整えることが大切であると改めて感じました。今回の研修を学び、今後現場ですこしでも患者の側に寄り添い、取り組んでいきたいと思っています。

広島はくしま病院 中原 奈美



今回研修に参加して自身のACPへの考え方が整理され、病院でそして地域で取り組むべき課題と現状を学ぶことができました。まだまだACPが周知されていない現状があるが、ACPを通して患者の意思決定を支援できるように工夫して取り組んでいきたいです。

医療法人社団曙会 シムラ病院 堀野 麻実

REPORT 05

第22回広島県看護協会広島中支部看護研究発表会

日時／令和5年2月11日(土)

場所／広島市立広島市民病院

演題は6題バラエティー豊かな内容で聞き応え充分。質疑応答もあちらこちらから、手が上がり活発な意見交換がされていました。会場も熱気に満ちており、久しぶりに楽しい時間が過ごせました。今後も集合研修が増えていくと期待しています。

医療法人あかね会 土谷総合病院 山本 利香



発表会では、普段聞くことのできない他施設での取り組みや看護研究を聞くことができ、患者さんにとってのより良い看護とは何かを考えるきっかけとなりました。また、質疑応答でも活発な質問や感想が述べられ、様々な意見を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。今後も日頃の看護に研究的な視点から疑問を持ち、より良い看護とは何かを考えながら看護を実践していきたいと思えます。

国家公務員共済組合連合会 広島記念病院 西矢 稔



令和5年度 事業計画

令和5年9月16日(土)	社会経済福祉研修会(マインドフルネス)
令和5年10月7日(土)	救急蘇生研修会
令和5年11月19日(日)	組織強化研修会・中支部研修会(LGBTQ)
令和5年12月9日(土)	関連職種地域連携研修会(BCP)
令和6年2月17日(土)	看護研究発表会

輝きびと
見つけた

新卒から訪問看護師となって活躍中のナースをご紹介します

広島赤十字・原爆病院訪問看護ステーション課 柴原 恵



広島赤十字・原爆病院に入職し新人看護師として訪問看護ステーション課に配属され、はやいもので6回目の春を迎えました。自宅で祖父を介護した経験から、私はぜひ訪問看護師として働きたいと思っていました。祖父は夜間に具合が悪くなることが多く、点滴は大丈夫か、呼吸が止まっていないかと、命を一人でうけおっているような思いでした。長く心細い夜、当時お世話になっていた訪問看護ステーションにいつでも電話がつながると思えることは大きな支えで、訪問看護の皆さんは最期まで祖父と家族に伴走してくださいました。私も入職以来、そのような役割を担わせて頂けることを本当に嬉しく思っています。

この春、2年間関わらせて頂いたAさんをご自宅でお看取りしました。その数週間前、意識レベルが低下されたときに、ご家族も積極的な治療を希望されませんでした。70年以上連れ添われたご主人は横でテレビ鑑賞、台所

からはお出汁の香りが漂い、ご近所の方が散歩ついでに寄られたりと、これまでと同じようにAさんは過ごされました。いつもの訪問スタッフが、ご様子に気を配りながらケアを行いました。苦しそうなご様子はみられず、皮膚状態の悪化もありませんでした。経口摂取も点滴もない状況で、少しずつ排泄量が減り血圧が下がり、Aさんはゆっくりと命を終えられました。淋しさのなかで、私には安堵の思いもありました。ご自宅で穏やかにご家族に囲まれて逝かれた、それだけではありません。ご家族をはじめ、在宅医、訪問スタッフが連携して、Aさんの思いを想像しながら一つ一つ大切にケアを行えたと感じたからです。病院のような医療環境はありませんが、日常生活が少しでも安楽であるように、訪問看護では利用者さんそれぞれのご事情に合ったサポートのために大小オリジナルな工夫をこらしたり、連携をとったりする場面も多くあります。まだまだ力不足ですが、訪問看護師としてのスキルアップとともに、一生活者としての工夫の視点を磨いていきたいと思っています。

編集後記

中支部だよりをお読みいただきありがとうございます。
令和4年度の研修事業は全てを会場で開催することができ、沢山の出会いがありました。役員一同喜びを感じた1年でした。
令和5年度も様々な事業を企画しております。皆様にお会いできることを、楽しみにしております。
発行にあたり、協力してくださった皆様にお礼を申し上げます。
呉山 奈津江

[発行日] 令和5年8月1日発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島中支部事務所
〒730-0051 広島市中区大手町4-6-11 ミニニューカーザ310号
TEL/FAX 082-248-2500
E-mail: s-naka@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 垣田 みどり